

ニュースレター Vol.1 News Letter

2020.8.3



サポセン SAPOSEN
ふくしま地域活動団体サポートセンター

CONTENTS

- P2-3 Pick up NPO
・非営利団体 KAKECOMI
・NPO法人 チームふくしま
P4-5 災害を考えよう!災害に備えよう!
NPOと企業等のマッチング事業
P6 チャレンジインターンシップその後
P7 助成金情報
P8

令和2年度の

サポセン事業を紹介します

NPOマネジメント強化復興加速化事業

「NPO運営力強化支援事業」

今年度のサポセン事業は、昨年度の台風被害や新型コロナウイルスの影響による経験を踏まえ、県内各地域の中間支援センターとの情報交換・共有にとどまらず、NPOの現場の声に可能な限り耳を傾け、現場のニーズに沿った支援を心掛けていきます。

また、新しい生活様式に沿った働き方などに役立てられるSNS講座や、組織基盤をしっかりと見直す基本講座、情報を得るための助成金見本市など、幅広く学ぶことができるよう講座や交流の場を展開する予定です。



「チャレンジインターンシップ事業」

今年度のチャレンジインターンシップ事業は、新型コロナウイルスの影響を大きく受け、スタートが大幅に遅れました。内容も調整しなくてはならず検討を繰り返しましたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策の一つとして、オンラインの導入やインターン期間の拡大など、多くの学生がいきなりできることなくチャレンジできる工夫をし、実施にあたって学生が受け入れ団体との関係性を密にできるようにサポートをしたいと考えています。

活動期間は8～12月までの予定です。



ふるさと・きずな維持・再生支援事業

「NPO、企業、学生等との連携・協力事業」及び 「ふるさと・きずな維持・再生支援事業成果報告交流会」、 「ふるさと・きずな維持・再生支援事業事務業務」

「NPO、企業、学生等との連携・協力事業」(マッチング事業)は昨年同様「①NPOアプローチ講座」「②NPOプレゼン講座」「③NPOと企業とのマッチング会」を実施する予定です。これまでの実施状況やアンケートなどから、企業の立場に立った視点も必要と考え、「マッチング事業初級者の学び」や「より企業視点に立った学び」を意識した初級編、応用編に分けた講座を開催する予定です。

また、「ふるさと・きずな維持・再生支援事業事務業務」では、22団体の採択団体が決まり、各団体で6月より事業が開始されました。昨年度の経験を活かしながら、サポートしていきたいと考えています。





非営利団体 KAKECOMI

白河市



<https://www.kakecomi.org/>



先生でありみんなのお兄さん！

誰も置き去りにしない社会を目指して！

2015年から活動を開始した非営利団体KAKECOMIは、代表の鴻巣麻里香さんと、一人親や障がいのある子どもを持つ親など、社会的に孤立してしまうリスクを抱えている当事者たちが主体となって活動し、誰もが支え合うセーフティネットのある社会づくりを目指している団体です。

活動の軸になっているのは、まかないこども食堂「たべまな」※の運営です。「たべまな」は、様々な理由で生きづらさを抱えた子どもや、その親御さんのための場です。子どもは自分ができるお手伝いをするにより無料で、大人はカンパ（任意の額）等で食事をすることができます。誰もが利用できる「たべまな」では、ただ一緒に食事をするだけでなく、高校生が先生となって下の子に勉強を教えたり年齢差に拘らず一緒に遊んだり、家とも学校とも異なる安心できる居場所になっています。

美味しい食事と
楽しい空間



新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、以前は鴻巣さんと「たべまな」に来ている子どもたちと親御さんなどで手分けして作っていた食事は、今はスタッフ3人程で調理をしています。食事を提供する場所として、以前から衛生対策はしっかりしていたので、その延長で大人も子どもも手洗い・マスクの着用を徹底し、必ず来所前に検温をしています。また、感染症の不安から家を出られないご家族のために、食事のデリバリーや見回りなどの訪問相談も行っています。

自粛期間中も、「たべまな」は通常通りオープンしていました。「子どもたちが駆けこめる場所の確保と、休校になることで給食がなくなり、負担が増えた親御さんを少しでもサポートできたら、と思い開所し続けました。現在は自粛が解除になり、学校も再開しましたが、今回の休校により子どもたちにかかるストレスは未知数です。子どもの自死率は、夏休み明けに上昇します。今はまさに同じ状況だと思いますので、注意が必要です。」と、鴻巣さんは言います。

子どもたちの置かれている環境により必要とされる支援が異なる中、自分達ができる事は何か、鴻巣さんは考え、行動し続けています。

※福島県白河市新白河2-24 毎週平日の月曜午後3時～8時オープン

ハロウィンには
みんなで仮装
パーティ！



NPO法人 チームふくしま 福島ひまわり里親プロジェクト

福島市



<https://www.sunflower-fukushima.com/>



全国の里親さんから届いた種から咲いたひまわり畑

福島から日本を元気にする！～For you For Japan～

ひまわりの種まき
イベントの様子



通気性抜群の夏用マスクと
プレゼントのひまわりの種

2011年3月11日に発生した、東日本大震災。NPO法人チームふくしま 福島ひまわり里親プロジェクト（以下チームふくしま）は、震災後の福島を応援・復興するべく、観光・防災・福祉雇用の3本立てで、県内の若手経営者により同年5月から活動が開始されました。

チームふくしまでは、復興のシンボルとして全国にひまわりを咲かせる「ひまわり里親プロジェクト」を行っています。個人はもちろん学校・企業など、全国の累計50万人以上の里親さん（ひまわり育成者）が一丸となり、ひまわりを通して福島と全国を繋ぐ手助けをしています。

今般の新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策のために自分達にできる事は何か、2011年の東日本大震災発生後、全国の方々から応援していただいたことをどうやって返そうか。プロジェクトメンバーは考えました。

「すぐに女性・高齢者・障がい者雇用に力を入れている学校体育着メーカー株式会社クラロンさんにマスクの製造を、就労継続支援B型事業所なごみを運営するNPO法人和さんに配送作業をお願いし、これまで培った繋がりのある

全国の里親さんたちにマスクをお届けしました。また、福島から明るい話題を発信しようと、テレビでお話をさせていただいたりもしました。皆さんに恩を返すというより、恩を送ると言った方が正しいかもしれません。」と、プロジェクトメンバーの皆さんは言います。

チームふくしまには、毎日のように全国から感謝のお手紙が届きます。何より、福島県からの応援ということが喜ばれるそうです。

6月からは、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止はもちろん、より多くの方にチームふくしまのことを知っていただき、福島ひまわり里親プロジェクトに参加していただけるよう、夏用マスクをご注文いただいた方に、全国の里親さんが送ってくださったひまわりの種を3粒プレゼントする「ひまわり・夏マスク大作戦」を始めました。売り上げの一部は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策の支援金として活用されます。

皆さんも来年の夏に向けて、ひまわりの種を植えてみませんか？



災害を考えよう！ 災害に備えよう！

昨年、台風19号による大きな被害を受けた福島。今後、全国に備え、全国の災害状況を知る福島県危機管理部 災害対策課と、NPO法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）さんにお話を伺いました。

【福島県危機管理部 災害対策課】

「マイ避難」 の つくりかた



★新型コロナ対策のため、マスクや消毒液、体温計などでもできるだけ携行しましょう。



自然災害から自分と自分の大切な人の命を守るために、日頃から自宅などの自然災害の危険性を把握して避難準備をしておくこと（「マイ避難」の取組）が必要です。昨年の台風19号の検証から、事前に避難行動を考えていた人ほど自宅が被災する前に安全に避難されています。

① 「ハザードマップ」を確認しましょう

自宅や職場の危険性を把握し、指定されている避難所を確認しましょう。

② 「避難する場所」を考えましょう

親戚や知人の家などが安全な場所と確認できる場合は、災害時に避難させてもらえるかあらかじめ相談してみましょう。

③ 「避難のタイミング」を確認しましょう

高齢者など避難行動に時間を要する方は警戒レベル3「避難準備・高齢者等避難開始」で、その他の方は警戒レベル4「避難勧告」で避難してください。

④ 「避難情報の入手方法」を確認しましょう

テレビや携帯電話のエリアメール、ホームページ、防災行政無線など様々な手段で発信されます。普段から確認しておきましょう。



福島県公式防災ツイッターを開設しました！ →
県オリジナルキャラクター「ベコ太郎」のナビゲートで災害関連情報を発信していきますので、フォローをお願いします。



【NPO法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）】

① 災害時、地域で 必要と思うことは？

被災者が利用できる支援の情報やツールを知っていることが必要だと思います。また、近くの安否確認をするなどそれぞれができることをする『地域のお互い様支援』が大事だと思います。

② そのためにNPOは 何をしたら良い？

県内各地に市町村単位で、NPOや行政、社会福祉協議会などの情報共有のネットワークをたくさん立ち上げ、気軽に情報を集約したり、提供できる仕組みがあると良いと思います。また、その小さな会議体をつなげた県内コア会議も活用できることが理想だと思います。

③ 災害発生時の 新型コロナウイルス 対策について

JVOADでは、新型コロナウイルス対策を含めた支援者向け「ボランティア・NPO等の災害対応ガイドライン」、避難者向けの「サポートブック」を発行しました。右記のアドレスよりダウンロードができますので、お役立てください。



ダウンロードは
こちらから→
jvoad.jp/guideline/



オンライン 会議編

Q ZoomやSkype、Whereby、Google Meet、Teams…
様々なツールがあり、どれを使ったらよいのかわかりません。



ワンポイント
アドバイス

一般的に無料版に比べ、有料版はセキュリティやサポート等の面で優れていますが、無料版を使う際は、ソフトを常に最新版へアップデートすることや、参加者へのミーティングIDやパスワードを別な手段で伝えるなどのリスク軽減を図りましょう。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、今年度は社員総会を書面/委任表決やオンライン開催など、いつもとは違う形で開催せざるを得なかった法人も多かったのではないのでしょうか。一方で、全員がマスクを着用しソーシャルディスタンスを保つなど、入念な対策をした上で実際に参集した法人もありましたが、昨年の台風19号や7月の記録的な豪雨など、近年は毎年のように災害が起きており、今後いつ台風や地震などの災害が発生するかわかりません。

そこで、移動時間の短縮や費用削減など、有事の際以外にも、メリットの多いオンライン会議を日頃から上手に活用できるようにしておきましょう。

A

無料/有料版と、同じツールでも違いはありますが、無料版であれば人数制限や通話時間制限などで違いがみられますので、参加人数や所要時間など、用途を明確にしておきましょう。

ツールによって、ダウンロードや登録が必要なもの（ほとんどが運営側のみ）、アカウントを持っていればすぐに始められるものなど様々です。

備え付け機能も便利なものが沢山あります。まずは気軽に仲間内で練習するなど、どんどんチャレンジしてみよう！



顔を知っている
間柄だったので、
話しやすかったです

体験レポート

NPO会計相談 オンライン開催

これまでは、サポセン事務所で行っていたNPO会計相談ですが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、初めてのオンライン開催となりました。今までに2回利用されているNPO法人0073（おおなみ）理事長の永井さんからは「大変便利でした！」との感想をいただきました。税理士の先生と初対面でもなかったことがスムーズに進められた一因だったようです。

ワンポイント
アドバイス



まずは顔見知りの人たちと始めてみましょう。

福島と白河を結んだオンライン取材

2ページの記事も
オンライン取材です！



日頃から上手に活用し、いざという時のために備えましょう！

福島県主催 令和2年度「NPOと企業等のマッチング事業」 今年度も開始します！

NPO単独ではなかなか解決することが難しい地域の社会課題をNPOと企業がお互いの強みを活かしながら「連携・協働」することで課題解決の方向へと進めるために、NPOと企業の「出会いの場」を創出するこの事業は、今年度で4年目になります。

今回は、これまで積極的に参加していただいたNPO法人ビーンズふくしまとNPO法人ピーターパンネットワークにお話を伺ってきました。

NPO法人ビーンズふくしま福島事業部長の江藤さんは、2018年7月より、福島市の吉井田学習センターで子どもの居場所づくりを目的とした子ども食堂「よいだキッチン」を主宰されています。このよいだキッチンも県内の企業との協働により開催されており、社員ボランティアや自社商材の提供などを受けながら運営されています。地域貢献の大切さを参加した社員の皆さんに学び取っていただくなど、企業にとっても得るものが大きい事業になっているようです。

江藤さんは「NPOは自分たちに不足しているリソースを協働相手に求めがちだが、これからはお互いのメリットになるような事業を作り出して、しっかりとパートナーシップを築いていくことが必要」とお話されていました。



会津美里町で障がい者の就労支援サービスを行っているNPO法人ピーターパンネットワークは、平成30年度に本事業に参加しました。この法人は飲食店や学校給食から出る廃油を精製しバイオディーゼル燃料にして販売する「BDF事業」や弁当を作って販売する「弁当事業」、焼き立てのパンを提供する「パン工房ウェンディ」の運営、会津東山温泉の旅館「くつろぎ宿」のロビー・廊下・客室の清掃作業の受託など様々な事業を行っています。

マッチング事業の成果や課題について、施設長の穴沢さんにお話をお聞きしたところ、「障がい者が活躍する場をさらに広げるために参加しましたが、会津若松市内にある株式会社エヌ・エス・シー様をはじめ、異業種との貴重な出会いをいただきとても参考になりました。企業にはないNPOならではの新たなものの見方がビジネスチャンスを生み出していくのではないのでしょうか。NPOと企業がそんなWin-Winの関係を築いていけたら。」とお話ししてくれました。

コロナ禍で苦境に立たされている企業にとってNPOが持つ知識やノウハウを活用することで新しい事業領域を開拓するといった新展開も、今年度事業では目指していきたいと思っています。

「NPOと企業等のマッチング事業」ウェブサイト

<https://fnpo-matching.f-saposen.jp/>
事務局 ふくしま地域活動団体サポートセンター
TEL 024-521-8206 (担当：遠山・齋藤)



チャレンジインターンシップ その後

NPO × 若者
復興!!

チャレンジインターンシップ経験者(平成28年度)荻野亮太さんは、現在、受入団体「ぴいかあぶう」の職員として活躍されています。荻野さんと「ぴいかあぶう」代表の吉田一也さんにお話をうかがいました。

チャレンジインターンシップ経験者 荻野 亮太 さん

- インターン実施時期 平成28(2016)年8月20日～26日
- インターン実施当時 東北福祉大学総合福祉学部福祉心理学科3年
- 現在 特定非営利活動法人ぴいかあぶう職員



荻野さん(後方左端)

吉田さん(中段右端)

Q1

実際の福祉の現場で、専門的な実習を積むことができました。終了後、大学の勉強にもより明確な問題意識を持って臨めるようになりました。

**インターンシップの
経験を振り返り、
良かったと思うことは？**

学生さんの受け入れは、日頃の業務を振り返る良い機会となり、多くの気づきを得ています。風通しをよくし、組織の活性化に繋がると考えています。

Q2

インターンシップ終了後、クリスマス会出演の声がかかりました。吉田さんと話をするうちに進路の相談になり、一緒に働かないかと誘っていただきました。

**職員になった
きっかけは？**

インターンシップ終了後に、学生側から団体にアプローチするのはなかなか難しいのではないかと思います。団体の方から声がけすることで、新しい展開があるかもしれません。

Q3

お子さんの支援には念入りな準備が重要であるということを学び、日々実感しています。インターンシップ時からつきあいのあるお子さんの成長を、うれしい思いで見守っています。

**職員になって
気づいたこと、
学んだことは？**



Q4

吉田さんやお子さんたちはじめ、インターンシップでの出会いにはとても“縁”を感じています。皆さんも、人との出会いを大切に、人生を豊かにしていってもらえればと思います。

**インターンシップ
経験者の皆さんに
ひとこと。**

夏休みの貴重な時間を費やして取り組んだのは、皆さんの思いや目的があつてのこと。実際の現場ではイメージと違うことも多かったと思いますが、見たもの、聞いたもの、感じたことすべてが財産であり、何一つマイナスはないと思います。この経験を、これからの仕事や人生の糧にしていって欲しいです。

助成金情報

チャレンジしてみよう!

NPO関連の助成金情報については
当センターのウェブサイトをご覧ください。
<https://f-saposen.jp/category/subsidy/>



◇子どもの健全育成、保健・医療・福祉

2020年度助成金【支援元／公益財団法人 SBI子ども希望財団】

- 助成対象／「児童養護施設」における「地域小規模児童養護施設」の新設、または「分園型の小規模グループケア」の新設を対象。
- 申込期間／2020年6月8日(月)～8月31日(月) 必着 ●上限金額／1件あたり200万円
- 参考URL／<https://www.sbigroup.co.jp/zaidan/grant/>

◇環境

2021年度りそな環境助成 【支援元／公益財団法人 りそなアジア・オセアニア財団】

- 助成対象／アジア・オセアニア地域において、現地活動者と協働して現地の環境問題解決へ取り組む草の根的な実践活動。
- 申込締切／2020年8月31日(月) 必着 ●上限金額／1件あたり100万円
- 参考URL／https://www.resona-ao.or.jp/project/environment_application.html

◇環境

トヨタ環境活動助成プログラム2020年度 【支援元／トヨタ自動車 株式会社】

- 対象事業／環境保全のための次の世代を担う人材の育成と環境問題の解決を目指す民間非営利団体等が実施するプロジェクト(詳細は下記URLをご確認ください)。
- 申込締切／2020年9月3日(木) 必着 ●上限金額／プロジェクトにより異なる
- 参考URL／<https://global.toyota.jp/sustainability/esg/challenge2050/challenge6/ecogrant/>

◇保健・医療・福祉、学術・文化・芸術・スポーツ、社会教育

2020年度助成金 【支援元／一般社団法人 芳心会】

- 助成対象／日本国内において、福祉・学問・スポーツ・芸術の振興等の公益活動または非営利活動等を行う、法人格を有する団体またはその活動を支援する団体。
- 申込期間／第2期募集 2020年7月1日(水)～9月30日(水) ●上限金額／1件あたり100万円
- 参考URL／<https://houshin-kai.or.jp/offering/>

◇子どもの健全育成

プロジェクト支援(団体向け支援事業) 【支援元／公益財団法人 楽天未来のつばさ】

- 対象事業／児童養護関連団体が行う児童養護関連プロジェクトで、そのテーマや内容が子どもの権利擁護、子どもの最善の利益に資するものであること。2年以上の活動実績があれば法人格の有無を問わない。
- 申込期間／後期募集2020年9月1日(火)～10月30日(金) 必着 ●上限金額／1件あたり30万円
- 参考URL／<https://mirainotsubasa.or.jp/institution/outline/>

◇全て

2020年度 年度内募集【支援元／日本財団】

- 対象事業／日本国内に所在があり法人格を有する団体が行う、災害その他の事由により緊急に実施する必要性が認められる事業または2020年度内に実施する必要性が認められる事業。
- 申込期間／2020年4月～2021年3月まで随時 ●上限金額／特になし
- 参考URL／https://www.nippon-foundation.or.jp/grant_application/programs/year

◇全て

「地域助け合い基金」助成 【支援元／公益財団法人 さわやか福祉財団】

- 対象事業／①コロナ禍対応助成(当分の間、優先配分)：(1)コロナ禍により被った助け合い活動の被害額の支援(2)コロナ禍により生じた生活上の不便・不安を解消するための助け合い活動。②共生社会推進助成：地域の助け合いを維持・発展する活動。
- 申込期間／2020年5月18日(月)～随時 ●上限金額／①(1)1件あたり20万円(2)1件あたり10万円②1件あたり15万円
- 参考URL／<https://www.sawayakazaidan.or.jp/covid19-donate/#subsidy-01>

◇保健・医療・福祉、災害救援

新型コロナウイルス感染症の拡大防止策に対する支援 【支援元／公益財団法人 JKA】

- 対象事業／新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡大防止で命を支える支援・援護活動及び啓発事業や物資の整備事業、または購入、管理、輸送、供与又は貸与に関する事業。
- 申込期間／2020年5月11日(月)から年度内随時募集 ●上限金額／特になし
- 参考URL／<https://www.keirin-autorace.or.jp/>

ふくしま地域活動団体サポートセンター

運営委託：福島県企画調整部 文化スポーツ局 文化振興課

運営受託：認定特定非営利活動法人ふくしま NPO ネットワークセンター

〒960-8043 福島県福島市中町 8 番 2 号 福島県自治会館 7 階

TEL.024-521-7333 FAX.024-523-2741

E-mail saposen@f-npo.jp URL <https://f-saposen.jp/>

◆県内の認証 NPO 法人団体／924 団体

◆認定 NPO 法人団体／19 団体 ◆特例認定 NPO 法人団体／1 団体 2020 年 6 月 30 日現在

編集後記

夏バテに負けずにファイト!!【内山】

もへじ君のお友達「へめへめくつ」を書く娘(3歳)【加藤】

～歳からの新しい環境…緊張…【齋藤(美)】

栄養ドリンクに頼らない体力・気力・集中力をつけたいです。【小野田】

来年こそはドームライブに行きたい!!【穴戸】

暑いですが、やっぱり夏はワクワクします!!【梅宮】

いつもと違う夏ですが、乗りきっていきましょう!!【遠山】

飲み会解禁!そしてダイエット!両立はムリだべ!!【齋藤(宏)】